

ジェットロ跡地活用に係る基本構想（案）

< 1. 江戸川台の社会構造の変化 >

地域社会の構造変化	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域人口の減少（この14年間で10%減少） ② 高齢者の割合の増加（この14年間で30.8%から37.7%に上昇） ③ 働く世代の割合の減少（この14年間で2割減少） ④ 子どもの数の減少（この14年間で600人が500人割れ） ⑤ 地域の消費活動が継続して衰退
-----------	---

< 2. 江戸川台の魅力と課題 >

江戸川台の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ① 緑の多い落ち着いた住宅地 ② 便利な公共交通機関と買い物しやすい駅前の立地環境 ③ 公共施設や教育施設が充実している ④ 程よい近隣関係が形成されている ⑤ 治安がよく、災害の危険性が比較的 low、安心して暮らせる
---------	--

江戸川台の課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 高齢化し子どもや若者が少なく、街の活気が失われつつある ② 商店街の魅力が低下している ③ 建物やインフラが老朽化し、バリアフリーになっていない ④ ふらっと集まる場所がなく、つながりが希薄化している ⑤ 働く若い世代に住んでもらうことが必要
---------	---

< 3. 江戸川台の目指すべき地域像 >

目指すべき目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 子育て世代に選ばれるまち <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑の多い、落ち着いた暮らしやすいまち ・ 公共交通機関、行政や商業サービスが充実しているまち ② 多世代が交流し活躍できるまち <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動が盛んなまち ・ ふれ合いと交流の機会のあるまち ③ 住み続けたいと思えるまち <ul style="list-style-type: none"> ・ こどもたちに思い出を残せるまち ・ 活気や魅力があるまち
---------	---

< 4. ジェットロ跡地施設の活用方針 >

活用方針	<p style="text-align: center;">豊かな暮らしと次世代を育む誰もがつながる場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 便利で豊かな日常の暮らしを支える行政サービスや民間サービスを行う複合型施設を公民連携により整備する。 ▶ 若い世代の流入を目指し、子どもを中心に、多世代の交流や地域で活動することにより、地域全体で子どもを育むことを目指す。 ▶ 性別等、年齢、障害の有無、人種、国籍等の違いにかかわらず、様々な背景を持つ人が排除されることなく、気軽に立ち寄り、地域の住民が自然に交流できるインクルーシブな施設を目指す。 ▶ 住民に親しまれるデザインの建物や広場空間を整備し、駅前として地域の顔となり、子どもたちにふるさととして愛される場所を目指す。
ジェットロ跡地の活用で解決していく課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 次世代を担う子どもや若者の確保 ② 住民同士がつながる機会づくり ③ 高齢化社会へ対応した支え合う体制づくり ④ 高齢者、障害者、子どもの他、誰もが過ごしやすい環境づくり ⑤ 地域固有の魅力づくり

< 5. ジェットロ跡地の必要な機能 >

必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> (1) 多様な行政サービスの提供機能 (2) 日常的に訪れたくなるサービス機能 (3) 子どもを中心とした多世代交流機能 (4) 地域活動を支援する機能
-------	---

< 6. ジェトロ跡地施設の必要な機能 >

必要な機能	整備施設・設備の候補
<p>(1) 多様な行政サービスの提供機能</p> <p>➤ 身近な場所で多様な行政サービスが受けられる</p> <p>➤ 災害時の支援機能を有する</p>	<p>① <u>江戸川台駅前出張所</u> ⇒一定の広さを確保するとともに障害者、高齢者の利用を考慮する。</p> <p>② <u>北部地域包括支援センター</u></p> <p>③ <u>江戸川台ファミリーサポートセンター</u> ⇒(3)の機能との連携を図る。</p> <p>④ <u>国際理解サポートセンター</u> ⇒事務所機能のみ設置。専用の会議室は設けず、施設の会議室を共用で利用することを基本とする。</p> <p>⑤ <u>ジョブサポートセンター流山</u></p> <p>⑥ <u>防災施設</u> ⇒防災備蓄品や井戸などの防災設備の設置、災害情報の提供を行う。</p>
<p>(2) 日常的に訪れたいサービス機能</p> <p>➤ 日常的にふらっと立ち寄りくつろげる</p>	<p>① <u>ライブラリーカフェ</u>など</p> <p>⇒日常的にふらっと気軽に目的がない人でも立ち寄れる。</p> <p>⇒お茶、おしゃべり、学習などができる。</p>
<p>(3) 子どもを中心とした多世代交流機能</p> <p>➤ 子どもを中心に、高齢者・子育て世代が触れ合い、交流する</p> <p>➤ イベント等を通じて全世代が楽しめる</p>	<p>① <u>子育て支援施設</u></p> <p>⇒子どもの一時預かりなど、子育て世代の流入に繋がる施設。親は親同士や地域の高齢者などに対し、日常の困りごとの相談や交流を行う。</p> <p>② <u>屋外広場</u> ⇒自由に交流できる広場空間。イベントやフリーマーケット等で利用できる。</p> <p>③ <u>屋上広場</u> ⇒屋上を広場等として開放し利用する可能性を検討する。</p>
<p>(4) 地域活動を支援する機能</p> <p>➤ 高齢者・子ども・障害者の他、誰もが趣味などを活かして活動する</p> <p>➤ 団体や企業が活動しやすい</p>	<p>① <u>多目的ホール、多目的室、会議室、集会室</u>など</p> <p>⇒様々な会合、講座、催し物、講演会や軽運動が可能なもの。パーティションを用い分割しての活用。</p> <p>⇒子ども、障害者の利用に配慮する。(例：振動、音や色光の設備など)</p> <p>② <u>シェアキッチン</u></p> <p>⇒子ども食堂、料理教室等が実施できるもの。子ども・高齢者・障害者が使いやすいように高さ調節や音声機能が備わった調理設備を備える。</p> <p>③ <u>工作室、作業室</u>など</p> <p>⇒木材などを加工して作品などを作る。地域の高齢者が経験を教え、若い世代や子どもたちに受け継ぐ。(例：工作や編み物、人形劇、おもちゃ修理、陶芸等)</p> <p>④ <u>ITルーム</u> ⇒ITを気軽に体験できて使い方を学ぶ。学生や一般人が利用できるワークスペースを備える。</p> <p>⑤ <u>チャレンジショップ</u> ⇒期間やスペースを区切って貸し出し団体や企業等が活動するスペースを備える。</p> <p>⑥ <u>展示室</u> ⇒市内の芸術家や市民作品等の展示場所を設置する。</p> <p>⑦ <u>スタジオ(防音室)</u> ⇒地域の魅力発信や若者が音楽やダンスなどの活動ができる。子どもや障害児が大きな声を出しても大丈夫な場所。</p> <p>⑧ <u>インクルーシブコーナー</u> ⇒性別等、年齢、障害の有無、国籍等の属性を問わず、全ての市民がお互いを認め合い、自分らしく暮らせるまちの実現を目指すための情報発信・活動スペース。(※インクルーシブ…「仲間はずれにしない」「みんないっしょに」という意味)</p>

※現段階で上記全施設の導入検証を行ったものではありません。設計において施設の合築や集約化など工夫を行い、当該施設の導入実現を目指します。
 ※(1)～(4)に掲げるものに限らず、トライアルサウンディングの結果なども含めて今後検討していきます。